

# 秋の褒章

## 道内から37人、1団体

秋の褒章受章者が2日付で発表され、道内からは黄綬12人、紫綬1人、藍綬24人(うち女性7人)、褒状(緑綬)1団体が受章した。<本文記事1面>

### 「社会心理学」を実験探究



◇…紫 綬…◇

北海道大学院  
文学研究科教授

山岸 俊男さん(56)

(小樽市)

一人ひとりの気持ちの持ち方がどんな社会を作るか、反対に、社会のあり方が人の心や行動にどう影響を与えるか――。

そんなつかみどころのない「社会心理学」を、実験を使い客観的、理論的に確かめる「科学」として探究してきた功績が評価された。

例えば、「信頼」に関する研究では、集団主義傾向の強い日本人よりも、個人主義の米国人の方が、他人を信頼する度合いが高いことを、外国と連携した実験で確かめた。

「実験は、チームで行うもの。褒章も、個人ではなく、研究室全体が頂いたと思う」と謙そんする。

人間の行動は環境によって変わるが、まったくの白紙で生まれてくるわけではない。「人間の進化過程で形作られた心の仕組みに沿った制度を作れば、よりよい社会ができるはず」と夢を語る。

### 「地域で信頼」青果店指導



◇…藍 綬…◇

全国青果物商業  
協同組合連合会副会長

佐藤源之助さん(68)

(札幌市中央区)

「先輩たちが築いた大きな山に、小さな石を積んだだけ。この業界全体に対する褒章です」とはにかむ。連合会の常任理事や副会長

として、青果物を扱う小売業者が地域で信頼される店となるよう指導を続けてい

る。「この道で生きよう」と決意したのは二十歳の時。実家の青果店で働き始め、二十五歳で後を継いだ。現在、札幌市内で、青果物

を中心としたスーパー二店舗を経営する。

すでに経営は二人の息子に任せているが、毎年夏には、店頭でゆでとうきびの販売を自ら行う。「目の前でおいしそうに食べてくれるのがうれしい」と笑う。

店で若い母親がカップめんを買うのを見ると、複雑な気持ちだという。「野菜や魚、肉といった、素材を調理して欲しい。子供たちの健康のために、これからも青果物の普及に取り組み」と決意を語った。